

期のねらい I 自分なりの目的に向かって遊びに取り組むようになる。(1)(2) II 自分の思ったことや考えたことを先生や友達に伝えて遊ぶようになる。(3)(9)
 III プールや水遊びをして水に親しみ、楽しさを感じるようになる。(1) IV 身近な人と触れ合い、地域に親しみをもつようになる。(5) V 身近な動植物に関心をもつようになる。(7)

前週の幼児の姿と反省・評価

<A 自分なりの目的に向かって、試したり根気よく取り組んだりしながら遊ぶようになる。>
 のねらいから
 ・シャボン玉液が設定されると、うちわや針金棒などを使って、大小様々なシャボン玉を作って遊ぶ姿が見られた。うちわの方が一度に小さいたくさんの数のシャボン玉ができることに気付き、空中に広がるシャボン玉の数の多さに喜んだり、「今度は大きなシャボン玉にしようかな」と、道具を持ちかえて作ったりする幼児の姿も見られた。
 ・鉄棒や登り棒にコツコツと取り組む幼児の姿が見られ、少しずつ上達が見られるようになってきた。
 ・気温が高い日が続き、プール遊びを多く実施できた。回数を重ねるうちに、ビート板で体を浮かせ、自分から水に顔を付けようとする姿が見られ、張り切って取り組む姿が見られた。
 このように、幼児が自分なりの目的に向かって取り組む中で、工夫したり、何度も繰り返したりする姿が見られたのは、幼児が自信をもって根気よく取り組めるよう、一人一人の頑張りを認めたり、励ましたりする言葉かけを丁寧におこなってきたことが効果的だったからであろうと思われる。気温が高い日は、戸外で遊ぶことが危険であるため、プール遊びにねらいをあて、目的に向かえるよう援助を重ねていきたい。

<B 友達と一緒に思いや考えを伝え合いながら遊ぶことを楽しみ、遊びを進めるようになる。>
 のねらいから
 ・円形ドッジボールやサッカーなどの遊びができるようなラインやボールが設定されると、すぐに興味をもち、友達を誘って楽しむ幼児の姿が見られた。昨年度、年長児に教えてもらったことを思い出し、その時のルールで進めていた。教師の参加がなくても、自分たちで進める姿が見られた。
 ・実習生が提案した魚釣りや忍者修行などの新しい遊びを経験したことを活かし、翌日からその用具を使って、自分たちで場を作り変えて遊ぶ姿が見られた。「もっと大きい池にしよう」「忍者のおうちにしよう」など、友達と考えを出し合いながら進めていた。
 このような姿が見られたのは、みんなで遊ぶと楽しめる遊びを多く設定したことや、新しい遊びを経験した後に、その用具を自由に使ってよいことを知らせ、自分たちで考えていくようにしたことなどが有効だったからであろうと思われる。よって、ねらいは達成したととらえる。また、遊び以外の場面で(プール遊びや給食など)、友達の頑張張りやよさを素直に認めて、「すごいね」と一緒に喜んでる姿を多くとらえることができ、友達と互いにより刺激を受け合っていると思われる。ねらいを発展させて、2学期へつなげていきたい。

<C 飼育物や栽培物を見たり、触れたり、世話をしたりし、関心を深めるようになる。>
 のねらいから
 ・夏野菜が収穫できるようになったことを喜び、自分で収穫して家に持ち帰った。「ナスをパスタにしたよ」「キュウリを塩づけでたべたよ」など、味わう姿が見られた。また、カレーパーティーでジャガイモやキュウリを嬉しそうに味わう姿が見られた。
 ・幼稚園の伊予かんの木にアゲハの幼虫がいたことを知らせ、クラスで飼うことにすると、毎日様子をうかがう幼児が多くなってきた。初めはとても小さかった幼虫がだんだんと大きくなると、黒から緑に変わった。「緑になってるよ!」「図鑑と一緒にだね」「早くもっと大きくなれないかな」「ウンチも大きくなってきたね」と、成長の変化を喜ぶ姿が見られた。
 このように自然に触れて自分なりの表現を教師や友達に伝える姿が見られた。クラスで飼うということは、幼児にとって、貴重な体験であることをとらえることができた。今週も引き続き、身近な自然に触れられるようにしていきたい。ねらいについては、1学期終業に向け、いろいろな行事が予定されているため、行事に関するねらいをあげて援助していきたい。

ねらい	A 友達と一緒に思いや考えを伝え合ったり、相談したりして、遊びを進めることを楽しむようになる。(II)	内容 幼児に経験してほしいと考える遊び	・自分なりの目的に向かい、うんてい・登り棒・鉄棒などの固定遊具に頑張って取り組んだり、友達を応援したりする (A)	絵本・紙芝居 ・たなばたのおはなし ・ふとんのなかで
	B プールで体が水で浮く楽しさや顔が水面につけられた喜びを味わう。(III)		・夏祭りに期待しながら、友達や先生、お家の人と一緒に、ダンピア伊勢崎やこども八木節踊り、バルーンゆうぎを踊る。(A)	
	C 行事の意味を理解し、楽しんだり、その場に合った態度で取り組んだりしようとするようになる。		・友達と相談して砂遊びや円形ドッジボール、サッカーなどを楽しむ。(A)	歌 ・たなばたさま ・シャボン玉 ・やっほっほなつやすみ
			・自分たちで遊びに必要なものを作ったり、相談したりして、ごっこ遊びを楽しむ。(A)	
			・自分の思いや考えを友達に伝えたり、友達の思いや考えを聞いたりして友達とかかわる。(A)	
			・流れるプールで体が浮く感覚を味わったり、ビート板を使って泳ぐ感覚をつかんだりする。(B)	
			・腕を伸ばして耳の後ろにつけ、蹴伸びをして泳ぐ。(B)	
			・七夕の由来を知り、七夕飾りを作って飾ったり、七夕まんじゅうを作って味わったりする。(C)	
			・ふれあい広場に参加し、お祭りごっこを楽しんだり、小さい子に優しく接しようとする気持ちをもったりする。(C)	
			・ミニデイでお年寄りと一緒に遊び、親しみの気持ちをもつ。(C)	
			・年中やクラスの友達と歌を歌ったり、ゲームをしたり、一緒に給食を食べたりして、お楽しみ会を楽しむ。(C)	
			・1学期に使った遊具や道具、保育室やロッカーなどの大掃除をして、気持ちよく夏休みを迎える。(C)	
			・1学期がおわることを知り、静かに先生の話聞きながら1学期終業式に参加する。(C)	
			<生活習慣> ・雑巾を固く絞る。 箸や鉛筆を正しく持とうとする。	

環境の構成の視点(○物的な環境・直接的な援助)

<A 友達と一緒に思いや考えを伝え合ったり、相談したりして、遊びを進めることを楽しむようになるために>
 ○ ごっこ遊びに必要な物を自分たちで作れるよう、幼児のイメージしていることを理解し、思いが実現できるように製作材料や用具を設定する。
 ○ 友達と考えを出し合って遊びを進められるように、砂場道具を充実させて出しておく。(大きなペットボトル)
 ・水をたくさん使いながら、ダイナミックに遊べるように環境を整えておき、遊びを思いきり楽しめるようにしていく。また、女兒の参加している姿を認め、教師も一緒に取り組みながら、楽しさを共感していく。
 ○ 天候を見ながら、シャボン玉遊びを前週同様にしておく。
 ・少し曇っている日の方が、シャボン玉の色が綺麗に見えることから、そのような日を逃さずに設定していく。
 ○ 熱中症に留意しながら、運動に適した気温を考えながら、円形ドッジボールやサッカーができる用具を設定する。
 ・友達とルールを考えながら遊びが進められるように、幼児同士のやりとりを見守っていく。
 ・気温が高い日は、室内で遊ぶことを促し、幼児の体調管理に十分に留意する。
 <B プールで体が水で浮く楽しさや顔が水面につけられた喜びを味わえるように>
 ○ 気温が高い日には、プールの水量を増やしておく。
 ・腕をまっすぐにのばしてビート板を持つよう言葉をかけ、ビート板を引っ張ってやる援助をし、泳ぐ感覚をつかめるようにする。
 ・幼児一人一人にできたことを十分に認めたり褒めたりして、自信がもてるようにする。

○ 顔が付けられるようになった幼児にビート板を使用しなくても泳ぐ経験ができるよう、腕を伸ばして耳の後ろにつけ、プールの壁を蹴って水面に浮くよう、個に応じて指導していく。
 <C 行事の意味を理解し、楽しんだり、その場に合った態度で取り組んだりしようとするようになるために>
 ・七夕まんじゅう作りをすることを伝え、七夕の由来と合わせて話題にする。できたまんじゅうをみんなで食べ、日本の伝統行事を体験できるようにする。
 ○ ミニデイがあることを事前に知らせ、昨年度の経験を思い出せるような言葉掛けをする。
 ・ミニデイのおじいちゃん、おばあちゃんに会うことに期待できるような言葉かけをしていく。また、年長としてどんな態度で参加したらよいかを事前にクラスで話題にし、指導しておく。
 ○ 誕生会、お楽しみ会で幼児が楽しく参加できるような内容を検討し、準備しておく。
 ・年中児やクラスの友達と一緒に楽しみながら取り組んだり、一緒に給食を食べたりして楽しい時間が過ごせるようにしていく。
 ○ 自分たちで1学期に使った場所や物を掃除したり、整頓したりして、きれいにしようとする気持ちがもてるようにする。また、保育室の床を雑巾がけする経験ができるようにする。雑巾を固く絞ること、床のすじに沿って端から順番に拭くこと、友達を抜かさず順番を守って拭くことなどを知らせ、みんなで力を合わせてきれいにするようにする。
 ○ クラスで夏休みの過ごし方について話し合う時間を設ける。夏休みの約束表についてや夏休み中の園行事(プール、夏祭り、など)があることを知らせ、楽しい夏休みとなるよう期待をもたせる。

日	2(月)	3(火)	4(水)	5(木)	6(金)	9(月)	10(火)	11(水)	12(木)	13(金)	17(火)	18(水)	19(木)	20(金)
行事			保育料集金日	七夕集会 まんじゅう作り			ふれあい広場	英語で遊ぼう	ミニデイ	誕生会 おたのしみ会				1学期終業式
		保育料袋配布			新採研(園内)	園長協議会	自主研							夏祭り
予定	プール遊び 水量多くする。		七夕饅頭準備			ふれあい準備		ミニデイ準備	お楽しみ会準備					

※ゴシック(1)(2)・・・は、幼児期の終わりまでに育てほしい姿に関連しているもの (1)健康な心と体 (2)自立心 (3)協同性 (4)道徳性・規範意識の芽生え (5)社会生活との関わり (6)思考力の芽生え (7)自然との関わり・生命尊重 (8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (9)言葉による伝え合い (10)豊かな感性と表現

5. 本日の展開 年長児 平成〇〇年 〇月〇日 (〇曜日)

前日の幼児の姿

- ・朝から強風だったが、B児とG児が取り組むだろうと予想し、砂場道具を設定しておいたところ、透明ホースを使い、予想通りの二人が遊び出した。E児も加わり、ホースを砂に埋めて水が噴出してくることを楽しんでた。次第に泥水を入れるようになり、ホースに砂が詰まってしまった。その詰まりが解消できたときに、泥水が噴き出してくる様子に面白さを感じ、わざと水を詰まらせて遊ぶようになった。泥団子を作り、それを入れて詰まらせてたりもしていた。
- ・クラスで飼育しているカタツムリ、アゲハの幼虫、バッタなどをじっくりと観察する幼児の姿が多く見られた。E児は、数日前に砂場で偶然見つけた幼虫を大切に想い、「これはたぶん、カブトムシの幼虫だよ」と自信ありそうに友達や教師に話した。「幼虫は、涼しいところが好きなんだよ」と、涼しい場所を見つけては、移動させていた。
- ・登り棒の表示を目指し、張り切って取り組む女児の姿が見られた。「今度は、くわまるくんをタッチしてくるね」と、いろいろなキャラクターを目指して取り組んでいた。
- ・女児は、友達とダンボールの家へ入り、美容室やさんごっこを始めていた。シャンプー台に友達を寝かせると、「どんな髪型にしたいですか?」と言葉のやりとりを楽しみながら進めている姿が見られた。
- ・耳鼻科検診では、事前の指導をしておいたためか、静かに自分の順番を待ち、受診していた。また、保育室に戻ってから、担任が戻るまで静かにクラスで絵本を読んでいるように話しておいたところ、全員の幼児が静かに待っていた。

本日のねらい

- 自分なりの目的に向かい、試したり繰り返したりして、遊びに取り組むようになる。
- 友達と思いや考えを伝え合い、試したり工夫したりしながら、一緒に遊びを楽しむ。

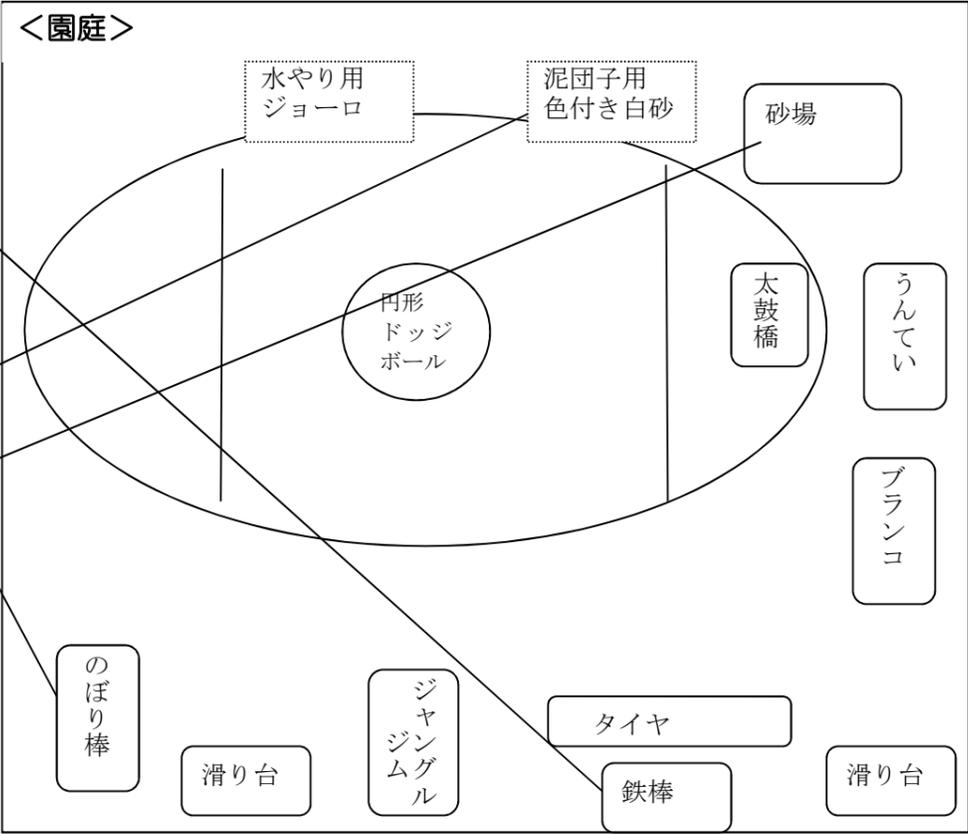
一日の生活の流れ	内容 (幼児に経験させたいこと)	環境の構成の視点 (○物的な環境 ・直接的な援助)
----------	---------------------	------------------------------

9:00~	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒で「豚の丸焼き」や「すずめのポーズ」「前回り」や「逆上がり」など、自分なりの目的をもって遊ぶ。 ・登り棒で、表示を目指し、頑張って取り組む。 ・硬さや大きさなどを考えながら、泥団子作りに根気よく取り組む。 ・友達と砂場道具の組み合わせ方を考えたり、同じイメージをもったりして砂遊びをする。 ・友達や先生と「鬼遊び」「円形ドッジボール」「サッカー」「すもうごっこ」などでルールを守りながら遊びを進める。 ・友達の気持ちを聞いたり、自分の気持ちを言葉で表現したりして一緒に遊びを進めることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鉄棒で、いろいろな遊び方に自分から取り組むことができるよう、遊び方表示を出しておく。また、安全面を考慮し、幼児が頻繁に使う鉄棒の下には、マットを敷いておく。 ・幼児が鉄棒で自分なりの目的に向かって頑張っている姿を認めたり、補助したりするなどの援助をする。その際、幼児一人一人の発達に応じて適切な補助を行い、幼児が取り組んで楽しかったという思いがもてるように配慮する。 ○幼児が「やってみよう」という気持ちをもった時にすぐに登り棒に取り組めるよう、シートを出しておく。 ・幼児が自分なりの目的をもち、登り棒に頑張っている姿を認め、必要に応じて補助をする。次第に自分の力で頂上まで登ることができるよう、励まし、補助の加減をしていく。キャラクターにタッチできた時には、達成感に共感し、幼児の意欲をさらに高められるようにする。 ○色付き泥団子用の白砂や泥団子持ち帰り用の箱を出しておく。 ・硬く、ツルツルした泥団子を作るために工夫したり、根気よく作ったりしている幼児の姿を認め、教師も一緒に作りながら楽しさを共感する。入園してまもないH児が数日前に友達から教わりながら作っていたため、教え合って作り進められるよう、促す援助をする。 ○雨どいや塩ビ管・ホースなど、いろいろな砂場道具を出しておく、幼児が自分で組み合わせを考えて遊べるようにする。特に、透明の長いホースは、連日興味をもって使用しているため、幼児の要求があった場所にホースを上から吊るすようにする。 ・幼児が試したり工夫したりしながら砂遊びを進めている姿を認め、教師も一緒に考えながら援助し、試行錯誤しながら遊んだり、思いが実現する充実感を味わったりできるようにする。 ○幼児が自分たちでやりたい遊び(円形ドッジボール、鬼遊び、すもうごっこ、など)を決め、用具を自分たちで用意して進められるよう、幼児が出入ししやすい場に遊びに使用するだろうと予想される用具を出しておく。 ○ダンボールの家に入り、ごっこ遊びをする幼児がいる場合は、幼児の遊びの様子で、ダンボールを補充してやるようにし、友達と考えを出し合って工夫できるような環境を用意する。 ・友達と一緒に遊びを進めていく中で、トラブルになった時には、自分の思いばかりを伝えるだけでなく、相手の気持ちを聞き、「どうしたらよいか」を考えさせる援助をし、なるべく自分たちで解決して遊びを進めていけるようにする。 ○気温が高い時には、意図的に休息や水分補給を促し、配慮する。
10:20 片付け		

本日の反省・評価の観点

- ・ 幼児が自分なりの目的に向かって取り組んだり、友達と思いや考えを伝え合いながら遊びを進めたりするための適切な環境の構成がなされていたか。
- ・ 本日の遊びの中で、幼児は自分の力を十分に発揮しようとしていたか。

雨天の場合や気温が高いなどで戸外の遊びができない場合には、保育室や遊戯室の環境を再構成し、ねらい達成に向けて援助をしていくようにする。



<保育室>